

パテントテック社では特許情報、科学技術情報を分析し視覚化（パテントマップ）して特定技術の動向調査分析報告書を提供しております。

パテントテック社では、

- ①「活用セミナー」・・・情報の分析、マップ化、活用方法等のテクニックについて、
 - ②「戦略セミナー」・・・知的財産の創造、保護、活用方法等の運用について、
- 等さまざまな分野の経験者をお招きしてセミナーを継続的に開催致しております。

本年は「研究開発における特許情報の戦略的活用セミナー」として

『三位一体の戦略活動を支える知財・情報・研究活動の展開』をテーマに計画実施いたします。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

セミナー番号：2016ys03

「研究開発における特許情報の戦略的活用」セミナー <第4回目>

講師	株式会社戦略データベース研究所 所長 鶴見 隆 氏
開催日	2016年 6月24日(金) 13:00 ~ 17:00
会場	東京都千代田区神田佐久間町1-14 第2東ビル606号 PAT-T606会議室 ・会場地図は裏面をご覧ください。
受講料	有料 / 1名につき29,700円 (消費税込、資料付)
定員	25名

【プログラム】 <13:15 ~ 16:30 途中15分休憩>

テーマ	『三位一体の戦略活動を支える知財・情報・研究活動の展開』 ～知的財産戦略とそれを支える特許情報活動の展開～
講師	<p>株式会社戦略データベース研究所 所長 鶴見 隆 氏</p>  <p>■ 講師紹介 鶴見 隆 (つるみ・たかし)</p> <p>1966. 東京大学理学部化学科を卒業と同時に旭化成（株）に入社 同社において、不織布（ベンリーゼ）、人工腎臓用中空糸膜、 ウィルス分離膜（プラノバ）の開発に従事 プラノバの開発で、発明協会発明賞、日本繊維学会技術賞、 日本化学技術省を授与</p> <p>1993. 同社カシミロン工場長 1997. 同社、常務理事、知的財産・技術センター長 2004. 旭化成（株）を定年退職 2005～2010 東京農工大学MOT教授として知財関連の講義を担当 2011. （株）戦略データベース研究所を設立、代表取締役社長 他に（株）知財デザイン取締役、（株）メディカルフォトンクス 取締役、知財高裁専門委員、知財国家検定試験委員等 工学博士</p> <p><主な論文></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「戦略的商品開発手法の開発」（QFDと特許情報の融合）、 知財学会創立10周年記念事業論文集、2014 ・「新商品開発における特許情報解析（QFD、デザイン思考、デザイン・ドリブン・イノベーション の場合）」、研究開発リーダー、2015 <p>HP http://www.sdb-ri.com/ E-mail t-tsurumi@mtc.biglobe.ne.jp</p>

【講義概要】は裏面をご覧ください。

講義概要	<p>1) 日本企業の情報処理能力を取り戻そう!</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部情報の重要性 内部情報の重要性 <p>外部情報と内部情報の結合の重要性 日本の情報処理能力の現状と課題</p> <p>企業活動において情報が重要であることは論をまたないが、現在の日本企業は、外部情報の活用、内部情報の活用の両面で、欧米企業あるいは中国・韓国企業の後塵を拝している。日本企業がグローバル競争で後れを取っている最も大きな原因はここにあると言って過言ではない。ところが、かつて日本企業は世界においてもっとも情報処理能力に長けていたのであり、今、日本企業にとって必要なのは、その遺伝子を復活させることなのである。特に物づくり、技術開発にとっては特許情報の処理能力であり、それができれば日本企業は再び世界のトップに立つことが出来る。</p> <p>2) 特許情報をいかに活用するか</p> <ul style="list-style-type: none"> 特許情報の重要性 特許情報活用の現状 <p>特許情報活用上の問題点 特許情報活用の実例</p> <p>企業が活用すべき情報の中で、特許情報はとりわけ重要な存在である。ところが、その特許情報を日本企業は十分に活用できていない。その理由は、特許情報を活用するための企業内環境が十分に整備されていないことにある。そのポイントは、研究者、特許担当者、特許情報担当者の三者からなる協力体制の確立と、それに基づいて、系統的体系的に特許情報活動を進めることにある。この活動のいくつかの成功例を紹介して参考に供したい。</p> <p>3) 特許情報の戦略データベースの構築と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 特許情報戦略データベースとは何か 特許情報戦略データベースの構築法 <p>特許情報戦略データベースの活用法</p> <p>特許情報を事業活動、研究開発活動、知財活動に最大限に活用するためには、特許情報解析ソフトを用いたデータベース（戦略データベース）の構築が不可欠である。</p> <p>戦略データベース構築の前提は、①遡及調査の実施 ②継続調査の実施 ③技術用語の統一、の3点である。これらは特許情報活動の基本であるにも関わらず、確実に実施されている企業は、必ずしも多くはない。逆に言えば、これを確実に実施しさえすれば、他社に先んじることができ、技術開発競争の勝者となり得るのである。</p> <p>特許情報戦略データベースは、三位一体の協力の下で事業戦略・研究開発戦略・知財戦略を展開する上で大きな役割を果たすことができる。</p> <p>そのための具体的な方法について、展開事例に基づいて、詳細に解説する。</p>
-------------	---

会場のご案内

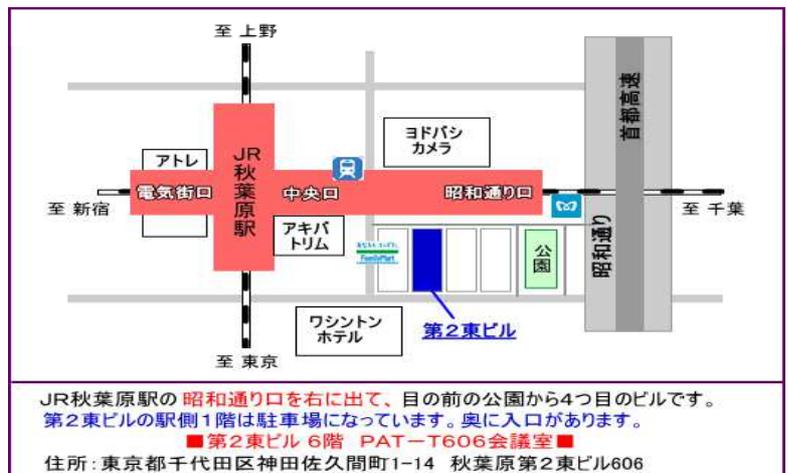
〒101-0025
東京都千代田区神田佐久間町1-14 第2東ビル606号
PAT-T606会議室

■ 交通手段

JR「秋葉原駅」中央改札口徒歩1分
東京メトロ日比谷線「秋葉原駅」徒歩3分
つくばエクスプレス (TX)
「秋葉原駅」A1出口徒歩1分
都営新宿線「岩本町駅」A3出口徒歩3分

◆ セミナーのお申込み ◆

下記のFAXお申込み用紙にて
お申込み願います。



[FAXでのお申込み用紙]

FAX:03-3252-2967

[セミナー番号: 2016ys03] パテントテック社 セミナー受講のお申込み書 (インパテック(株)経由)

セミナー名称	「研究開発における特許情報の戦略的活用」セミナー<第4回目>	開催日時	2016年 6月24日(金) 13:00~17:00
▼会社情報		▼受講者情報	
受講申込み日	年 月 日	お名前	<input type="checkbox"/> 銀行振込 <input type="checkbox"/> 現金書留 <input type="checkbox"/> 当日、現金支払 お支払予定日
会社名		フリガナ	
フリガナ		部署名	
会社のご住所	〒	役職	
		電話番号	
		Eメール	



[お問合わせ]

T e l : 03-5297-1131 Fax : 03-3252-2967

M a i l : seminar@patent-tec.jp